

# 平成 24 年度に感染症発生動向調査から 検出されたウイルス

丹羽祥一 小林美保\* 佐々木佳子 塚越博之 石岡大成\*\* 黒澤肇

## Viral Agents Surveillance Report in Gunma Prefecture from April, 2012 to March, 2013.

Shoichi NIWA, Miho KOBAYASHI, Yoshiko SASAKI, Hiroyuki TSUKAGOSHI, Taisei ISHIOKA\*  
Hajime KUROSAWA

### 1. はじめに

感染症発生動向調査事業に係わる病原体検査は、感染症法において病原体の動向を短期的及び中長期的に把握することを主眼としている。当事業は、速く変化する病原体情報を正確に把握・解析し、医療機関等関係機関への情報還元が主体となっている。以下、本稿では平成 24 年度（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）に病原体検査定点を受診した患者の検体から分離・検出されたウイルスについて概要を報告する。

### 2. 材料及び方法

定点に指定されている医療機関に受診したウイルス性疾患（疑いを含む）患者から得られた咽頭ぬぐい液、結膜ぬぐい液、糞便、髄液等を材料とした。ウイルス分離・同定及び PCR 法を主体とした遺伝子検査は定法に従った (Schmidt, 1989)。

### 3. 結果

初診時臨床診断別月別検査件数を表 1、臨床診断別月別ウイルス検出数を表 2、臨床診断別ウイルス検出数を表 3 に示した。今年度の検査件数は 180 件、検出数は 80 件、検出率は 44.4%であった。

\* 現 東部県民局 館林保健福祉事務所

\*\* 現 国立感染症研究所

#### 3.1. インフルエンザ

インフルエンザの検査件数は 44 件、検出数は 30 件、検出率は 68.2%であった。内訳は、AH3 亜型が 24 件、B 型が 5 件、AH1pdm2009 が 1 件であり、AH3 亜型が最も多く検出された。AH3 亜型は 11 月から検出されはじめ、検出数は平成 25 年 1 月が最大となり、3 月まで検出された。B 型は平成 25 年 1 月と 3 月に検出された。国立感染症研究所の集計によると、全国のインフルエンザウイルス検出報告数は、AH3 亜型が平成 24 年 11 月頃から増加し、平成 25 年 1 月に最大であった (<http://idsc.nih.gov/iasr/prompt/graph-kj.html>)。また、B 型は平成 24 年 1 月頃から報告数が増加し、2 月後半から 3 月にかけて最大となった。AH1pdm2009 は年度を通して報告数が極めて少ない状況であった。以上から、本県のインフルエンザの検出状況と比較した結果、全国と同様に AH3 亜型を主とした B 型との 2 種混合であったと考えられる。

#### 3.2. 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎の検査件数は 24 件、検出数は 16 件、検出率は 66.7%であった。A 群ロタウイルスが最も多い 9 件から検出された。さらにノロウイルス GII 型が 4 件から検出された。ノロウイルスは冬季を中心に、A 群ロタウイルスは冬季から春季にかけて検出された。さらに、サポウイルスが 1 件、ヒトアデノウイルス 31 型が 1 件、アストロウイルスが 1 件から検出された。アストロウイルスの検出は、

本県では初めてであった。国立感染症研究所の感染性胃腸炎患者からのウイルス検出状況によると、秋季から春季にかけてはノロウイルス GII 型が主流となっており、その他ではノロウイルス GI 型およびサポウイルスが検出されている (<http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-kj.html>)。さらに、冬季から春季にかけて A 群ロタウイルス等が報告されている。以上から、本県のウイルス検出は、全国と同様であることが示唆された。

### 3.3. 手足口病

手足口病の検査件数は 15 件、検出数は 10 件、検出率は 66.7% となった。検出されたのはコクサッキーウイルス A16 型が 7 件、コクサッキーウイルス A9 型が 1 件、エンテロウイルス 71 型が 1 件、ライノウイルスが 1 件であった。手足口病患者由来のウイルスは平成 24 年 6 月から 9 月にかけて検出され、7 月に最大となった。その後、12 月にもコクサッキーウイルス A16 型が 2 件検出されている。国立感染症研究所の手足口病患者からのウイルス検出状況によると、各月の検出報告数は、6 月から増加し、7 月後半に最大となった後、

緩やかに減少して 12 月前半まで比較的多く報告が続いている (<http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-kj.html>)。検出されたウイルスは、7 月まではコクサッキーウイルス A16 型が主流であったが、8 月以降はエンテロウイルス 71 型とコクサッキーウイルス A6 型の割合も増加している。以上から、本県のウイルス検出は全国とほぼ同様であるが、エンテロウイルス 71 型とコクサッキーウイルス A6 型の割合が全国と比較して少なかったことが示唆された。

### 謝辞

本調査にあたり、御協力を頂いた関係医療機関の方々に深謝いたします。

### 文献

国立感染症研究所、病原微生物検出情報  
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/prompt/graph-kj.html>  
 Schmidt NJ. 1989, Cell Culture Procedures for Diagnostic Virology. In Diagnostic Procedure for Viral, Rickettsial And Chlamydial Infections, 6th eds. American Public Health Association INC, Washington, 51-218.

表 1 平成 24 年度臨床診断別月別検査件数

疾患名	月												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
インフルエンザ	5	1	3	1	0	1	0	3	10	17	0	3	44
感染性胃腸炎	3	5	2	1	0	0	0	5	5	0	0	3	24
無菌性髄膜炎	4	5	1	0	4	3	5	0	0	0	0	0	22
手足口病	1	0	1	4	2	0	0	0	4	0	0	3	15
流行性角結膜炎	0	0	0	0	3	0	1	3	2	2	2	1	14
ヘルパンギーナ	0	0	3	8	0	0	0	1	0	0	0	0	12
咽頭結膜熱	0	1	1	3	2	0	0	0	0	0	0	0	7
その他	5	6	4	2	4	1	2	7	2	5	2	2	42
合計	18	18	15	19	15	5	8	19	23	24	4	12	180

表2 平成24年度臨床診断月別ウイルス検出数

ウイルス	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
ヒトアデノ	2			2		1								3
	3			1	1			1						3
	4					2								2
	8									1		1		2
	31				1									1
	41		1											1
インフルエンザ	AH3	1	1		1				1	7	13	1		25
	B	2		1							1		1	5
	AH1pdm09										1			1
ヒトメタニューモ		1	1											2
ライノ		1				2		1						4
コクサッキー	A4			1										1
	A9				1		1							2
	A16			1	2	2				2				7
エンテロ	71				1									1
ノロ	GII		1						2	2			1	6
サポ										1				1
ロタ	A群	4	4	1				2						12
アストロ			1											1
合計		10	8	7	7	7	1	2	5	13	15	2	3	80

表 3 平成 24 年度臨床診断別ウイルス検出数

ウイルス	疾患名	インフル エンザ	感染性胃 腸炎	無菌性髄 膜炎	流行性角 結膜炎	手足口病	咽頭結膜 熱	ヘルパン ギーナ	その他	合 計
ヒトアデノ	2						1		2	3
	3				1		2			3
	4				2					2
	8				2					2
	31		1							1
	41								1	1
インフルエンザ	AH3	24							1	25
	B	5								5
	AH1pdm09	1								1
ヒトメタニューモ									2	2
ライノ						1			3	4
コクサッキー	A4							1		1
	A9			1		1				2
	A16					7				7
エンテロ	71					1				1
ノロ	GII		4						2	6
サポ			1							1
ロタ	A 群		9						3	12
アストロ			1							1
合計		30	16	1	5	10	3	1	14	80